



クーパー
PECO
Vol.45 2018.11

ポストの快刀乱麻

～本を集める② 寄贈編～

郷土資料 編

図書館にはたくさんの本が並んでいます。その数は書庫にしまっている分も含めるとおよそ78万冊。本は年々増え続け、その数なんと年間約1万数千冊。しかもその本のおよそ半数は「寄贈」によって増えているのです。そこで今回は、「寄贈の流れ」についてポストと一緒に見てみましょう！

14 追跡!
書架に本が並ぶまで

郷土資料

- ◆町内会の歴史や記念誌
- ◆自治体の発行物
- ◆お祭りなどの小冊子
- ◆観光案内 ◆防災マップ
- ◆フリーマガジン など

寄贈ではどんなものを集めるの？



駅や街で見かけるものも郷土資料の対象なんだね！

岩手県に関する本や、岩手ゆかりの方が書いた本である、郷土資料を積極的に収集しています。しかし、郷土資料は流通範囲が狭く、少数部しか作られないものも多いため、必ずしも書店から購入できる訳ではありません。そうした資料も漏れなく収集するため、発行元や制作者に「寄贈をお願いします」という方法もとっています。

寄贈の流れ

① 出版情報の収集

新刊書カタログには載らない本もたくさんありますので、新聞やインターネット、県内の出版社など、様々な情報源を使って発行情報をチェックしています。



新聞は主要全国紙や地方紙9紙をチェックしています。この他、県内の大学や博物館などに出版物や情報の提供をお願いしています。

出版したら教えてください。

② 寄贈のお願い



電話で依頼

発行情報を整理し、販売していないものは発行者や制作者に連絡をし、寄贈のお願いをしています。中には自治体が発行する広報誌や統計書のように、定期的に図書館に寄贈していただいているものもあります。

③ 受付・お礼状の発送

寄贈のお願いをした本は郵送で届くことが多いですが、中には図書館に直接届けてくださる方もいます。図書館からは感謝の気持ちを込め、お礼状をお送りします。



県立図書館では、なぜ郷土資料を集めるの？

未来に生きる人がその土地の事や、そこで生きた人の事を調べる時の手がかりになるから。

県立図書館は、その県の情報を資料※で蓄積していく場所です。蓄積された情報は、現在の調べ物だけでなく、未来へとつながる貴重な情報源にもなります。未来の皆さんにも活用いただけるようにとの願いを込めて、保存・収集をしています。

※資料 ▶ 本、雑誌、新聞、映像・音声・電子資料

「郷土資料」寄贈のお願い

次のような本がありましたら、ご寄贈ください。

- ◆岩手県内に住む人、岩手県出身の人が書いた本
- ◆岩手県に関する内容 ◆岩手県内で発行された本
- ◆岩手県に関係ある人のことを書いた本

岩手県の貴重な文化財産として、未永く保存します。

県立図書館スタッフおすすめの本

「失われた名画」の展覧会

モナリザも、ムンクの「叫び」もかつて盗まれていた…。どこの美術館にも出来ない展覧会を県立図書館でどうぞ♪

請求記号 池上 英洋 著
702.3/イケ 大和書房 出版

Moonlight Serenade

アイナの「もりおかわんこ」でおなじみの奈良美智。彼の代表作である女の子など、制作活動のプロセスが見られる展覧会カタログです。可愛くて、不思議な奈良ワールドへようこそ!!

請求記号 奈良美智 作
708.7/ナラ 金沢 21世紀美術館 出版

県立図書館イベント案内

映画会

子ども向け 11:00～

毎月第2・4日曜日

11月	12月	1月
11日	9日	13日
25日	23日	27日

一般向け 14:00～

毎月第2・4日曜日

(翌月曜日再上映)

11月	12月	1月
11・12日	9・10日	13・14日
25・26日	23・24日	27・28日

おはなし会 14:30～

おはなし☆すてーしょん	11月	12月	1月
毎月第1・3日曜日	4日/18日	2日/16日	6日/20日

手づくりかみしばい	11月	12月	1月
毎月第2土曜日	10日	8日	12日

ファミリーおはなし会	11月	12月	1月
毎月第4日曜日	25日	23日	27日

図書館さんぽ コンシェルジュガイドツアー

毎月第1日曜日	毎月第4日曜日
10時～、13時～	11時30分～
11/4 12/2 1/6	11/26 12/24 1/28

休館日	11月	年末年始	1月
	30日(金)	12/28(金)～1/3(木)	31日(木)

第33回 啄木資料展

期間 9/14(土) - 11/18(日)

会場 4階展示コーナー

「第72回読書週間」(10/27～11/9)に合わせ、過去2年の間に当館が新たに収集した石川啄木関連資料を一堂に集めて展示します。

企画展

初公開！郷土資料展 ～貴重書庫の中から～

期間 12/1(土)～1/20(日)

会場 4階展示コーナー

江戸時代における盛岡藩内の地誌『邦内郷村志』の関係資料や、盛岡藩七代藩主・南部利幹に宛てた礼状『徳川吉宗御内書』など、過去の企画展示では公開したことのない当館所蔵の近世から明治までの岩手に関する古文書等を展示します。



**本屋という「物語」を
終わらせるわけにはいかない**

松本大介 著 / 筑摩書房 出版

「思考の整理学」「文庫 X」等のベストセラーを連発してきた、岩手県盛岡市を中心とする〈さわや書店〉。さわや書店から出版業界を見てきた著者が、本屋の仕事と日常、本のこれからを綴っています。『web ちくま』連載を基に加筆・修正したものです。



**八戸藩
(シリーズ藩物語)**

本田伸 著 / 現代書館 出版

うち続く凶作・飢饉を克服し、海の交易で栄え、人・物・文化が豊かに芽吹いた八戸藩。時代に先駆けた安藤昌益、盛んな漁業、鉱業など、八戸藩の歴史を紹介しています。写真・図版も多数収録しています。



**居眠り通信
TVディレクターの取材ノート**

本宿紳保 著 / 文芸社 出版

取材中の印象深い出来事、悲喜こもごも人間模様、少年期の濃縮された記憶、情緒に満ちた風景と季節のうつろい…。元NHKディレクターが豊かな経験を掘り起こして綴った、味わい深いエッセイ集です。著者の本宿紳保さんは、岩手県出身です。



バルス

楢岡平 著 / 講談社 出版

広がる格差への不満を背景に非正規労働者の待遇改善を訴えて「バルス」と名乗る人物が「テロ」を仕掛けた——。国内の物流が滞り、さまざまな産業が打撃を受け始め…。『山口新聞』『神奈川新聞』などでの連載を加筆し単行本化したものです。著者は岩手県出身です。



宮沢賢治の心を読む 4

草山万兎 著 / 童話屋 出版

サル学的世界的権威でもある著者が、難解な賢治のコトバをわかりやすく解説するシリーズです。「かしわばやしの夜」「双子の星」「やまなし」「月夜のけだもの」の全4作品をとりあげ、そこにこめられた賢治の心に迫ります。



鉦ヶ崎心中

平谷美樹 著 / 小学館 出版

物語の舞台は盛岡藩の閉伊郡宮古通鉦ヶ崎村。戊辰戦争の最中、宮古湾鉦ヶ崎で、幕府の復活を信じる青年・和磨と、その姿に思いを寄せる千代菊の物語です。物語の中に出てくる、当時の文化や風景の描写も興味深い一冊です。